
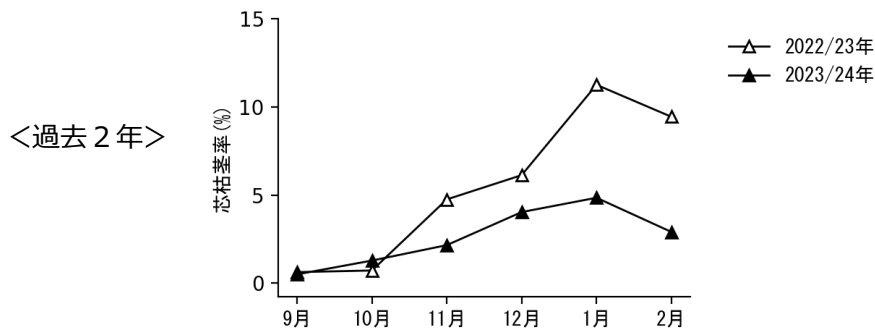
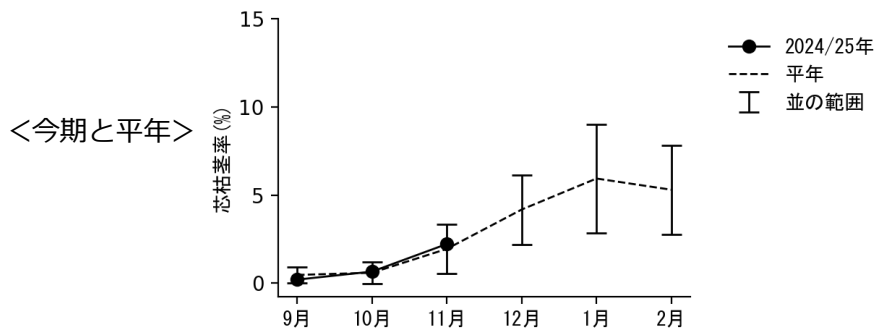


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↗		
		12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯莖率の推移 (夏植え)



- ・発生種：イネヨトウ (84%)、カンシャシクイハマキ (16%)。
- ・発生ほ場率81.2% (平年：69.7%)

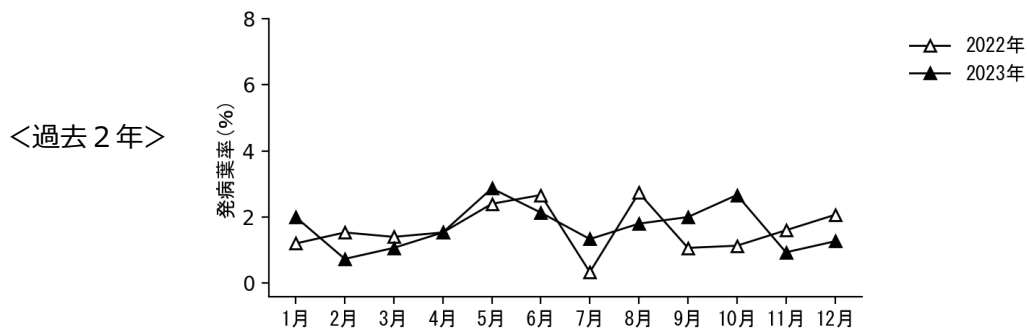
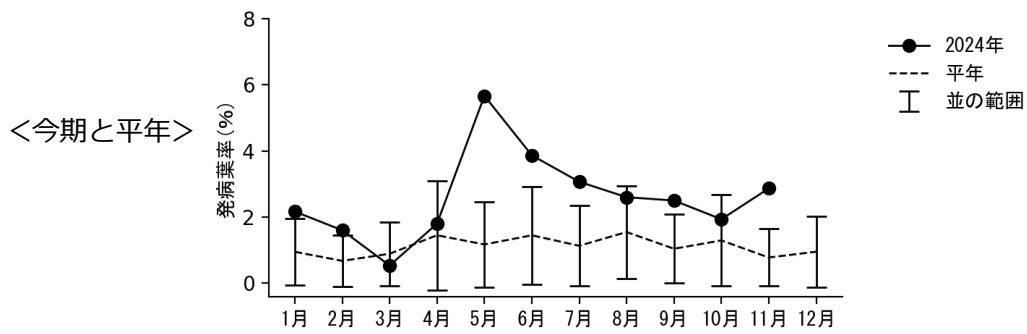
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かんきつ (温州みかん)		地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	11 月からの増減傾向	→		
	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.6 (平年0.2)
- ・ 発生ほ場率80.0% (平年 : 38.8%)

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

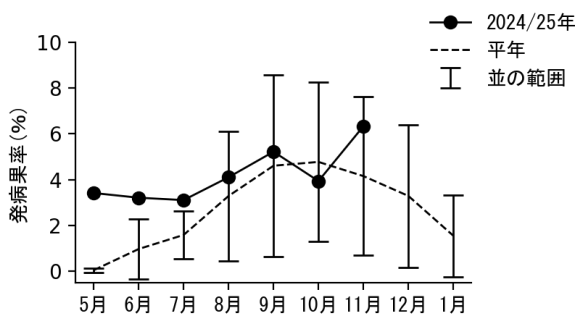
被害果→



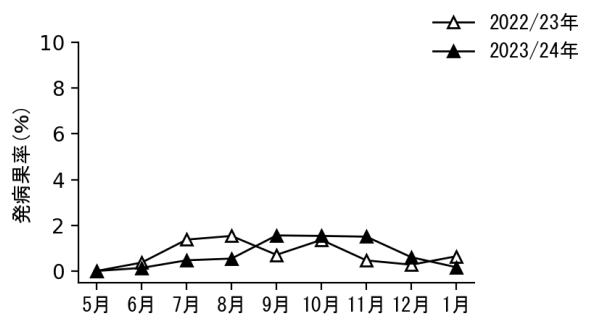
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

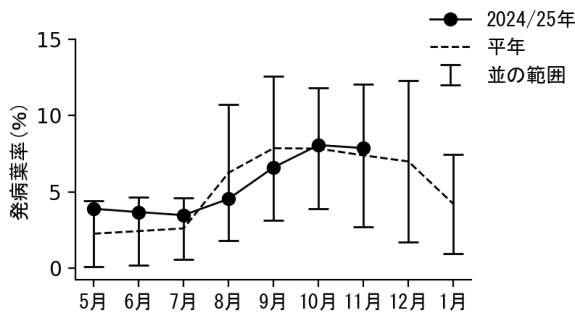
発病果率の推移 (今期と平年)



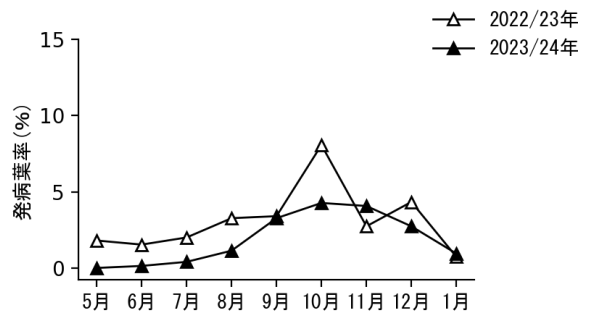
発病果率の推移 (過去 2 年)



発病葉率の推移 (今期と平年)



発病葉率の推移 (過去 2 年)




- ・ 果実の発病度1.4 (平年0.7)
- ・ 発生ほ場率80.0% (平年 : 83.0%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は翌年の伝染源になるので除去する。

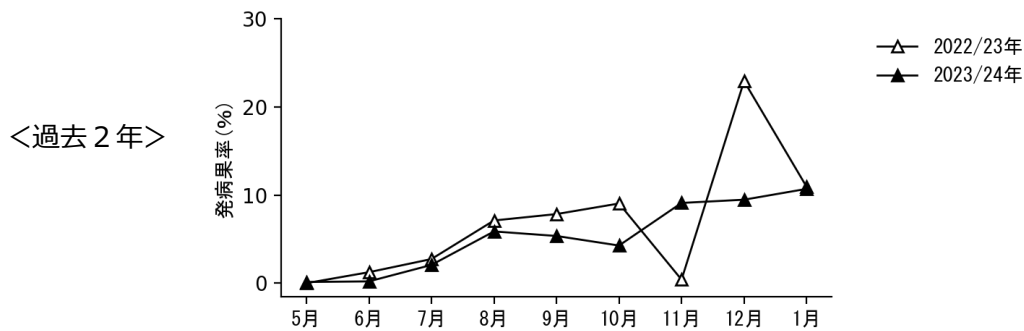
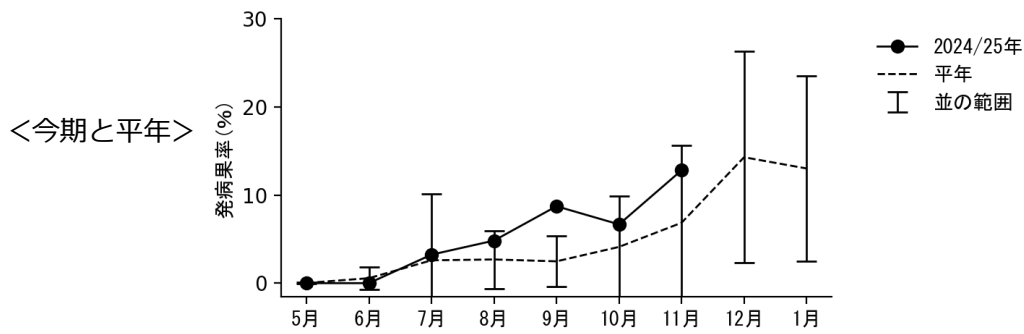
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並		
予報	11 月からの増減傾向	↗		
	12 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度2.6（平年2.3）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：63.8%）

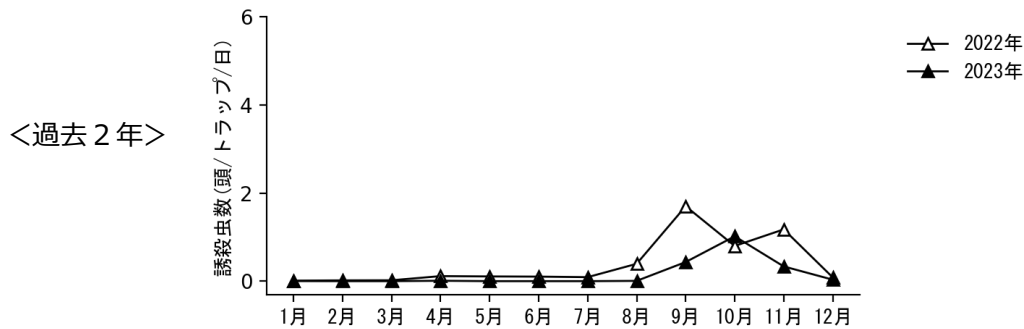
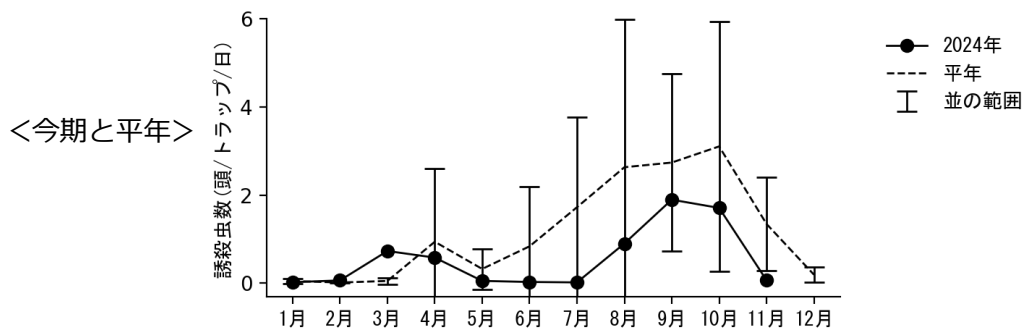
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	11 月からの増減傾向	↓	
	12 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率75.0% (平年 : 97.5%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

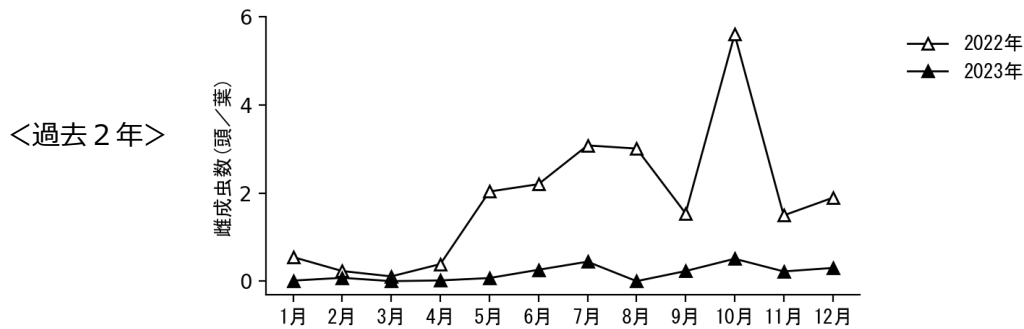
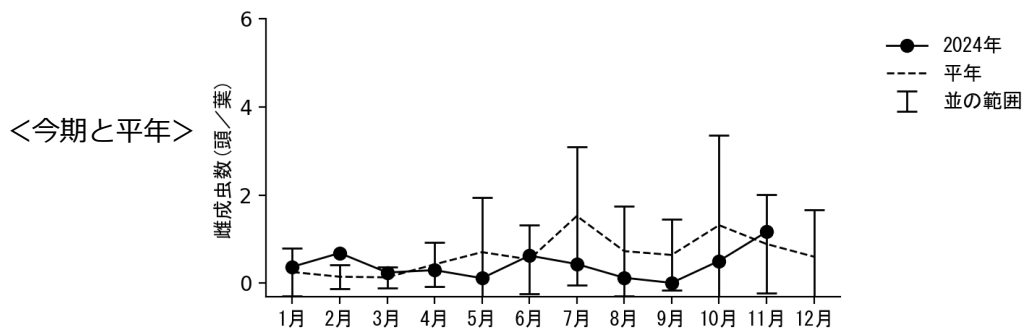


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↘		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率62.5% (平年：48.1%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少いがらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

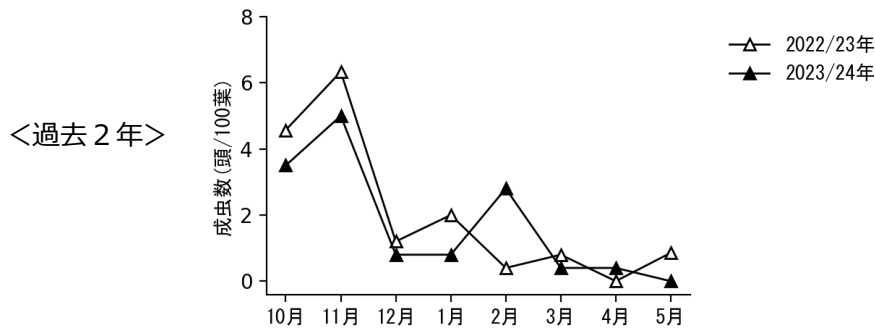
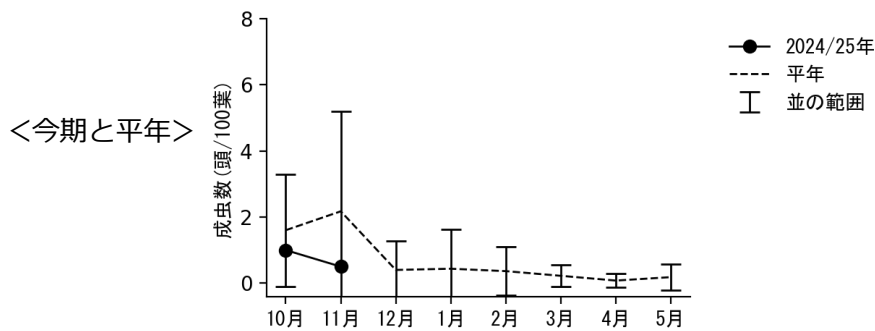


マンゴーツメハダニ

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率25.0% (平年 : 22.0%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

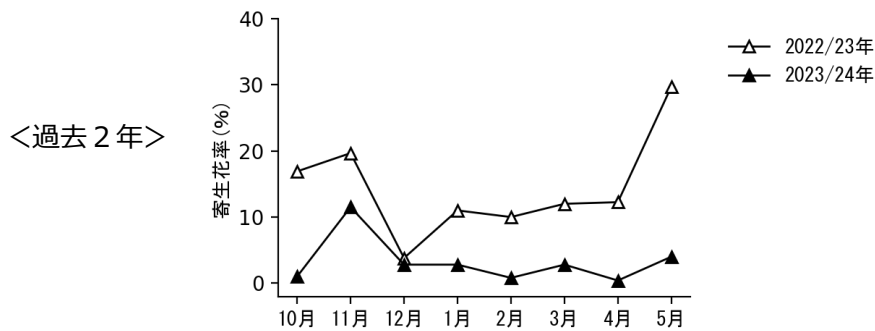
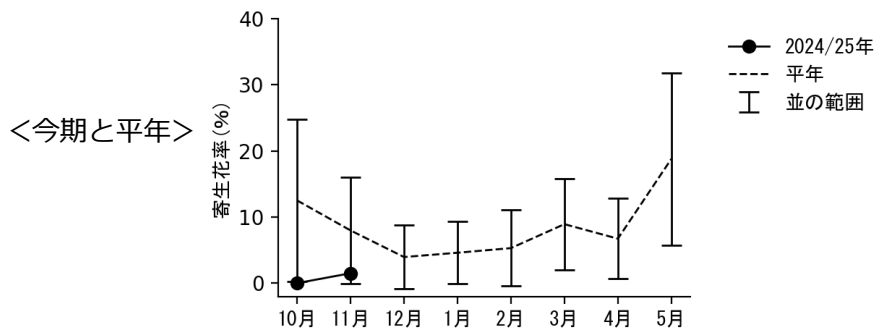


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↘		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

寄生花率の推移




・発生施設率25.0% (平年 : 40.0%)

防除のポイント

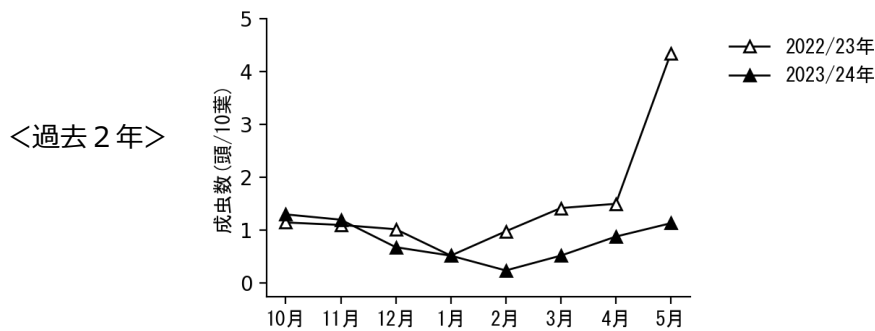
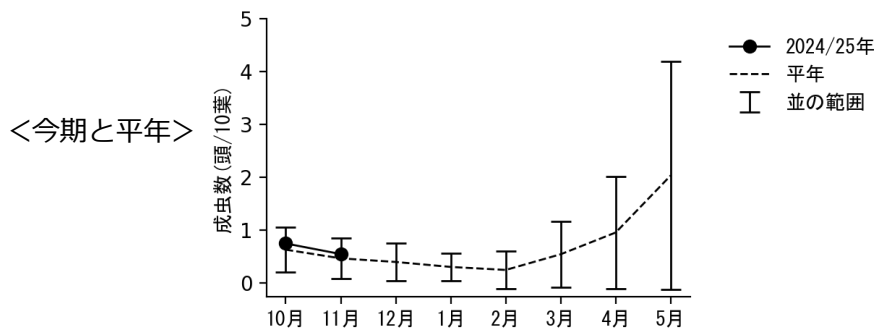
- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。



作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	→		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率50.0% (平年 : 52.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

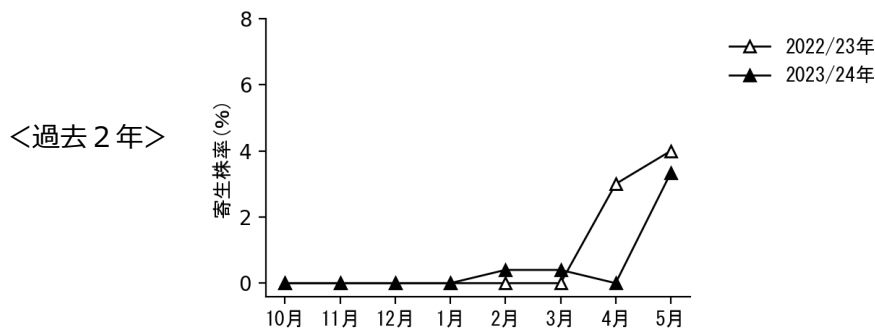
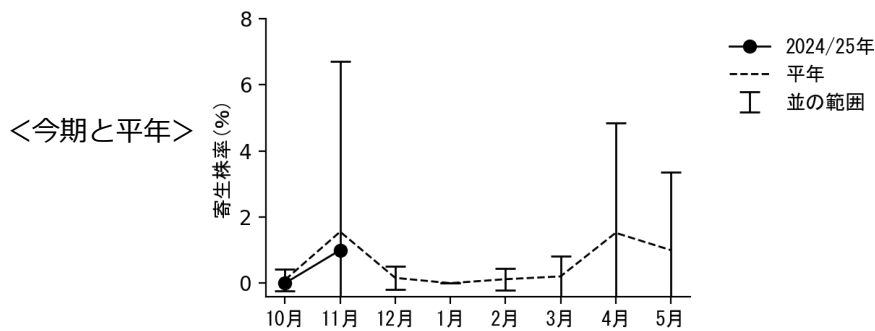


幼虫

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		 <p>ワタアブラムシ</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


寄生株率の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率25.0% (平年：4.4%)

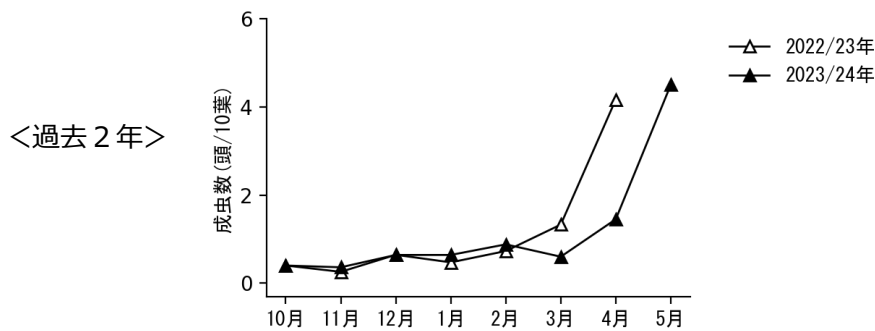
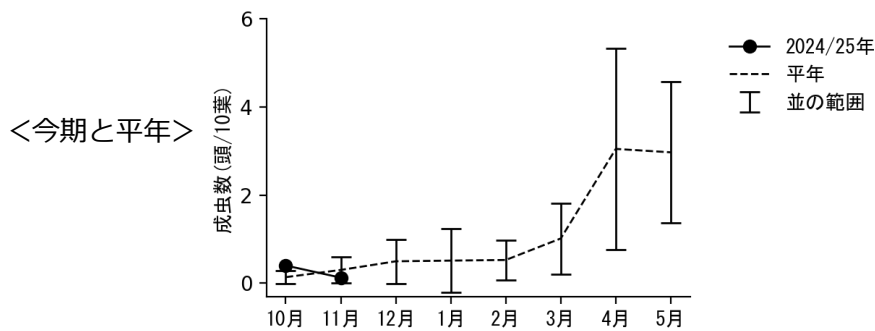
防除のポイント

- ・アブラムシ類はキュウリモザイクウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率50.0% (平年 : 52.9%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

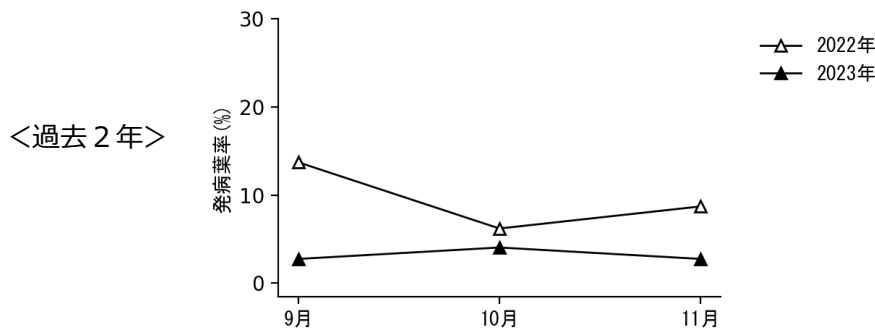
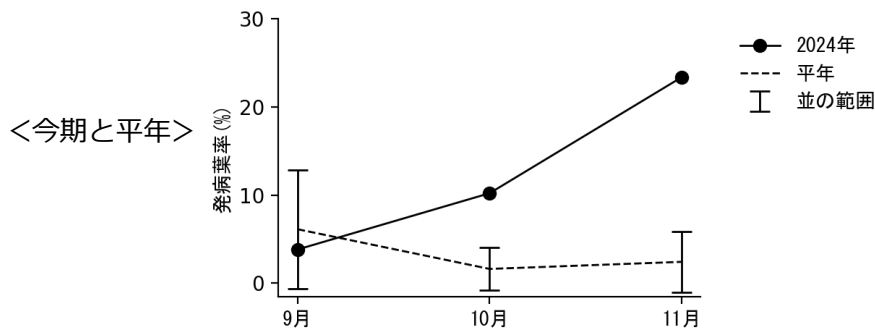


幼虫

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	多	
予 報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率100%（平年：25.5%）

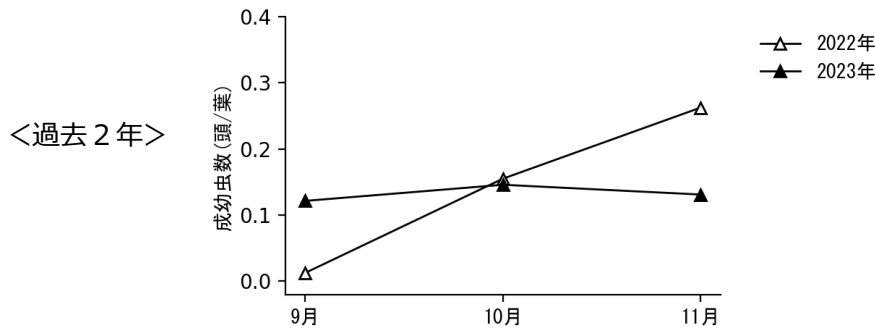
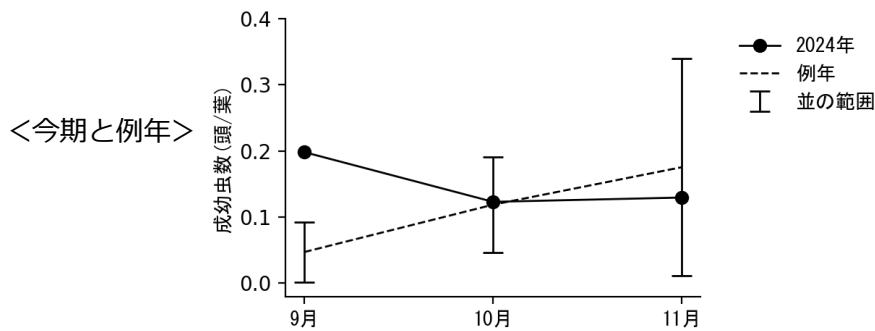
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。
- ・栽培終了後は次作の発生源にならないよう、残渣など速やかに処分する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	11 月の発生量（例年比）	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（例年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率87.5%（例年：78.8%）

防除のポイント

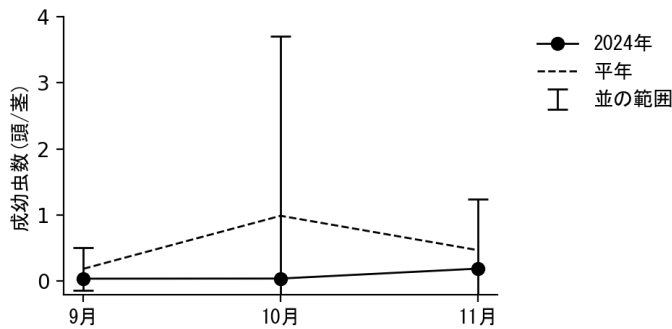
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

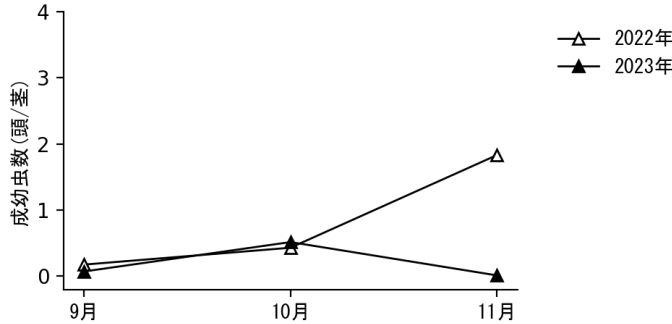
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>




- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率50.0% (平年：35.3%)

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。



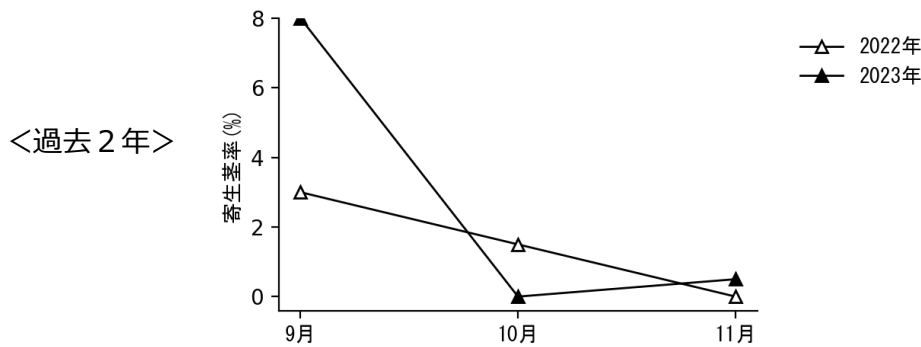
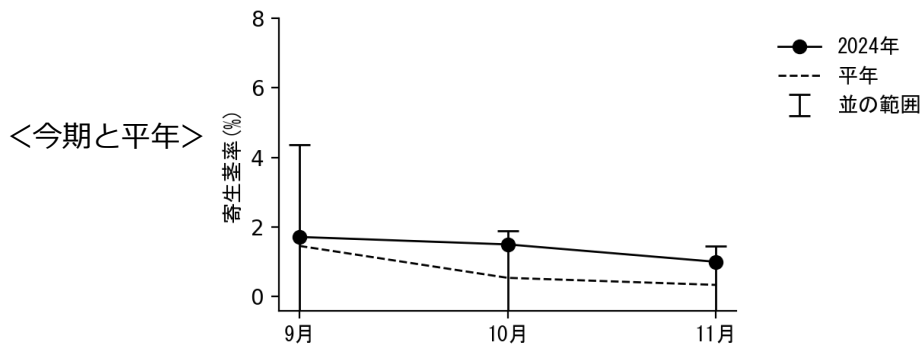
寄生の様子

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	

予報の根拠

調査結果

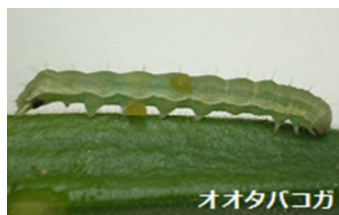
寄生茎率の推移




・発生ほ場率25.0% (平年 : 4.0%)

防除のポイント

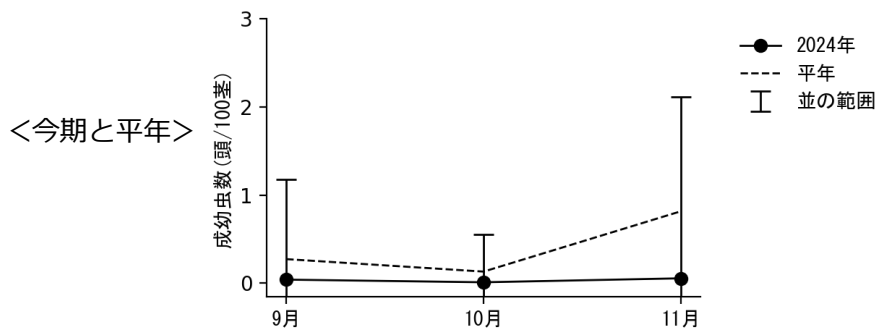
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



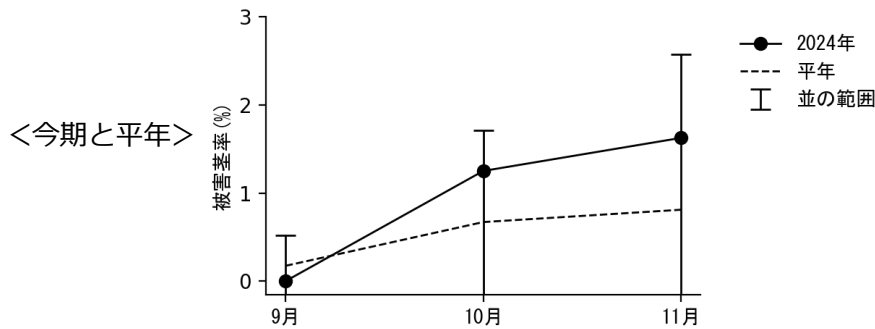
作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		 <p>ウスモンミドリカスミカメ</p>
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移




- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率37.5%（平年：15.7%）

防除のポイント

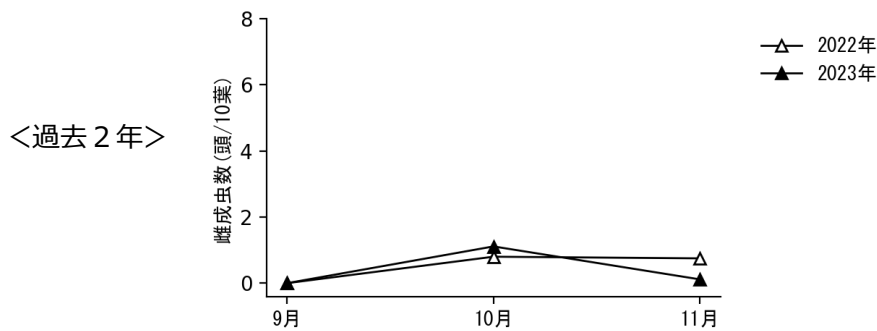
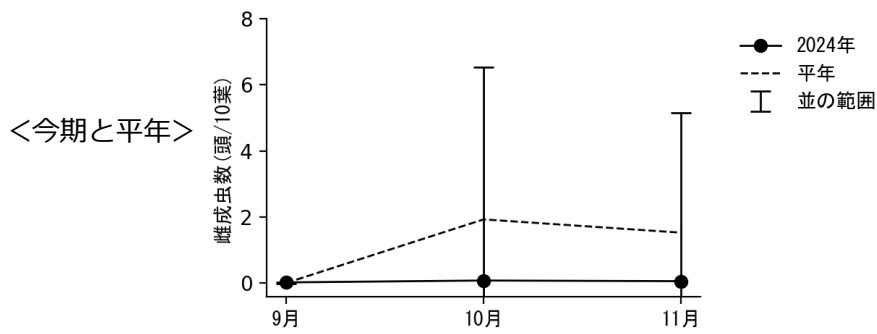
- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から 5～7 日おきに実施する。



作物	小ギク (年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	—		
	12 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ (黄緑型)
- ・発生ほ場率50.0% (平年：14.8%)

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。